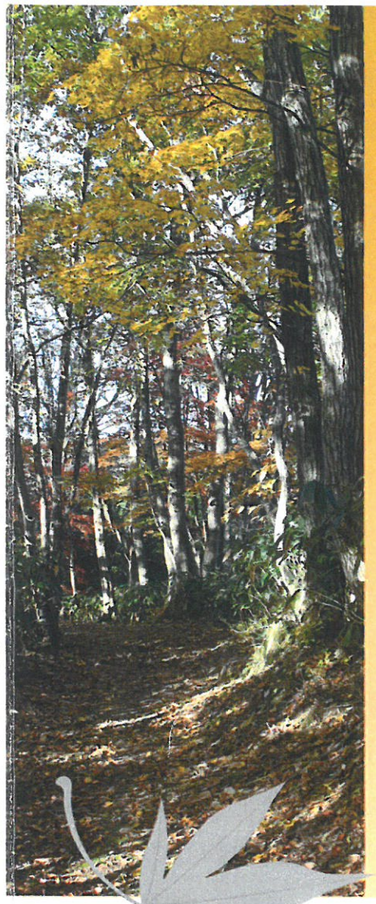
猿鼻街道

トレッキングマップ



Infomation

1. 猿鼻街道
2. 応永の板碑
3. 経塚（金光明王）
4. 尼壇
5. 乗馬長嶺
6. 血の池

① 猿鼻街道

鮭川村中央公民館入口のコンビニ脇を東の方向に進むと、①猿鼻街道入口に続く道に出る。人家を過ぎ間もなく、右手に②応永の板碑の看板が出てくる。1395年に建てられた自然石の墓で、当地方での存在は珍しいとのことである。50mほど進むと猿鼻街道入口の説明板がある。すぐに③金光明王と呼ばれる小祠があらわれる。ここに経塚があり、石に一字ずつ写経したものが埋まっていた塚らしい。現在の京塚の名称の由来ともなっている場所である。

100mほど進むと、突然視界が広がり草花が咲く湿地帯に出る。この場所は猿鼻街道歴史保存会の皆さんが率先して維持活動を行い、自然が復活してきている貴重なところだ。木道を進むと杉林の中に、ひっそりとたたずむように④尼壇がある。良説と妙随という尼さんが諸国を巡礼し、近くのお寺に滞在していたところ、良説尼が病により他界してしまった。そこで、妙随尼が中心となり村中で供養塔を建てたとの云われがある。尼壇を過ぎると、街道で一番の難所すり鉢越えとか、肘曲とか言われる急坂だ。この坂の途中に夫婦坂の標柱がある、もうひと踏ん張りで東屋のある⑤乗馬長嶺（じょうめながね）だ。乗馬長嶺には戸沢藩主二代目正誠公（香雲寺）にかかわる伝説がある。近くには数か所の石塚が見られる。頂上を少し下がった左手奥に、どんな日照りでも涸れないという不思議な小沼の⑥血の池がある。昔、往来するときは賽銭を投げ込んだとも云われる場所だ。現在の血の池は、直径1mほどの落ち葉が堆積した窪地となっている。ここからは、県境の山々や神室連峰の眺望が開けている。しばらく行くと⑦スーパー農道に出るので、横断し進む。緩やかな下りを楽しみながら進むと新庄が見えてくる開けた場所に出る。もう上絵馬河に到着だ。（血の池は分岐より往復しても5分ほど。）

猿鼻街道入口
かつては京塚から新庄城下への山越えであった猿鼻街道。ここで猿鼻街道の概要を知ることができる。

金光明王付近標柱
金光明王を祀った祠のところにある標柱。猿鼻街道ではところどころに案内の標柱があるため、迷うことがない。おおよその距離もここで知ることができる。

湿地帯
人々が山の手入れをしなくなり、一度は消滅してしまった湿地帯。地元の方の手入れにより、かつて湿地であった姿を取り戻しつつある。

スーパー農道
京塚側から来ると、舗装された農道に出る。ここから上絵馬河地区へと入っていく。

秋の猿鼻街道。美しい紅葉を見ることができる。

上絵馬河登山口（猿鼻街道終点）からは新庄方面が一望できる。

コースタイム　1時間25分→←1時間30分

鮭川村中央公民館(10分→←10分)猿鼻街道入口 (12分→←10分)尼壇(20分→←15分)乗馬長嶺(8分→←7分)血の池分岐(15分→←18分)スーパー農道(20分→←30分)上絵馬河登山口

発行者：鮭川村
鮭川村役場むらづくり推進課
TEL 0233-55-2111

乗馬長嶺の伝説

鮭川村日下に白髭神社がある。その下の田園に、神社の奥の院と云われる沼があり白髭沼という。昔から、白髭明神がましますところとされ、村人は願い事があると御神酒樽を投じて、受納のしるしにたちまち水中に引き入れられると、願いが叶えられるとされた。沼の深さは計り知れないほどで、日照りが続いたときなど、幟を立てて雨乞いの祈願をする場所でもあった。この話を聞いた戸沢二代目藩主正誠公は、生来豪気な性格の持ち主であったことから、それではこの沼を掻き干して、主を見てみようと言い出した。家来たちは沼の主の祟りを恐れ、取りやめるよう諌めたが聞き入れない。世の中に物の怪などあろうはずがないと、強引に家来と村人に下知して、沼干しにかかった。沼がもうじき干し上がろうとするとき、一天にわかにかけ曇り山河が崩れんばかりの雷音が轟き、あたり一面暗雲につつまれた。人々は恐れをなし地べたに這いつくばった。雲間から白髭大明神が大蛇と化し姿を現した。この有り様を見て、さすが豪快な殿様も恐れをなし早速、沼かきを取りやめいち早く帰城することにした。名馬にまたがり、急きょ猿鼻街道を走り越えんとするとき大蛇に化けた白髭大明神が追いかけてきた。なにするものぞと、殿様は名刀の了戒を引き抜き応戦し、からくも大蛇を追い払ったが馬は大蛇に脚を噛まれ死んでしまう。ここに名馬を葬り名馬塚としたという。このような伝説がもとで、街道の中腹から嶺にかけて乗馬長嶺とよぶようになった。

（小川邦昭著「歴史街道散歩」より引用）

⑥ 血の池

猿鼻街道を進んでいき、京塚地区から農道へと向かうちょうど中間点あたりに血の池と呼ばれるところがある。この血の池と言われる場所は、かつて日照りが続いても水が乾くことのないという不思議な小池があったとされる。今では水らしきものはなく、深さ６０ｃｍのくぼみである。昔そこを往来するときなど、賽銭を投げ込んだものだというが、乗馬長嶺の伝説と関わりがあるのか定かでない。一説には、ちょうど街道の中間点であることから、休憩場所を作るために井戸を掘った痕ではないかとも言われる。

通称・血の池
深さ60cmほどのくぼみ。水らしきものはなく、今は落ち葉が積もっている。

血の池からの景色
血の池がある小高い丘からは神室連峰が一望できる。紅葉の季節には見事なコントラストを見ることができる。

血の池

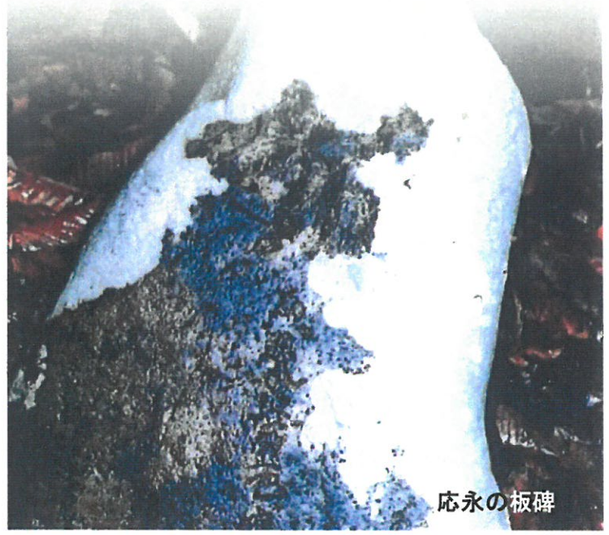
④ 尼壇

良説と妙随という尼さんが諸国を巡礼し、近くのお寺に滞在したところ、良説が病により他界してしまった。そこで、妙随が中心となり、村の人々の協力を得て良説の供養塔を建てたとの云われがある。

尼壇

② 応永の板碑

猿鼻街道入り口より右手の山に入っていったところにある、室町時代に自然石（安山岩）で建てられた墓。室町時代の山岳信仰として、天台・真言宗の流れを汲む山伏修験系統の寺院（金光明王、延寿院など）にかかわる建立と思われる。応永の板碑も当時の時代背景を通して、修験者の手で建立されたものと推測される。鮭川村の有形民俗文化財に指定されている。



応永の板碑

猿鼻街道　歴史探訪

村内のおもな道路としては、村々を結んで新庄城下に至る道路と、曲川をさかのぼって庄内に越す峠道、また北の方に向かって真室川内町の方に至る道路などがあった。本村から新庄に至る陸路も小別すればいくつかあった。このなか、最も重要な道路は、古くは真室川・庭月・京塚方面から牛潜へはいり、塩野に出る道路であったようである。この道路は、「真室道」と呼ばれ、戸沢氏の真室城入部のおりもこの路を通ったと考えられる。その後は猿鼻街道が開かれ重要性がうすれたが、なお後世まで利用された。しかし、この道路は京塚周辺の村々や中渡村方面からみれば、かなりのう回路にあたるので、藩制前期に京塚村奥から猿鼻山を越え滝の倉にでて、谷地小屋を経て新庄に至る街道が開かれた。この街道は猿鼻街道とよばれた。真室川・大沢・庭月・曲川方面の人々は皆猿鼻街道を通って新庄にでた。毎年の秋から冬にかけて年貢米を背負って藩庫に納めるにも、萱・大垂などの小物成を納めるにしてもこの道を通ったであろう。このように猿鼻街道は重要な道路にもかかわらず、いくつかの峰と沢を越さねばならない難路であった。とくに、最初の山上にたどりつくまでの登り道は俗に肘曲りなどと呼ばれるかなりの難所であり、大沢衆などはこの峠道を「摺鉢越え」などとよんでいたということである。

（『豊里村誌』八六頁より引用）

⑤ 乗馬長嶺

乗馬長嶺は、猿鼻街道の中腹から嶺にかけての急な坂道を呼ぶ。ここが乗馬長嶺と呼ばれるようになったところは、戸沢藩主二代目・正誠公の伝説による。鮭川村日下地区に白鬚沼に願い事を叶えると言われる白鬚明神がいることを知った正誠公は、強引に沼干しにかかった。そうしたところ、大蛇となって姿を変えた白鬚明神が正誠公を襲った。正誠公は猿鼻街道を馬で駆け上がって逃げたが、途中追いつかれ、馬は大蛇に脚を噛まれ死んでしまう。こうした伝説が残っていることから、この急な坂を乗馬長嶺と呼ぶようになった。

乗馬長嶺の説明看板
乗馬長嶺を登りきったところにある説明看板。

休憩用のあずま屋
説明看板のとなりには休憩用のあずま屋が建っている。急な上り坂を登ってきた後は最適

乗馬長嶺の途中の坂

③ 経塚（金光明王）

猿鼻街道を進むとすぐにある金光明王を祀った小祠。ここに経塚があり、石に一字ずつ写経したものが埋まっていた塚らしい。この石は、経文を書写して供養し埋めたもので、これまで５０個ほど出土している。室町時代のものと考えられ、仏教史からも貴重であり、これが埋まっていた経塚が京塚地区の名前の由来にもなったとされる。

一字一石の経塚
供養のために埋めたとされる一字一石の経塚。当時の貴重な文化をうかがい知ることができる。

金光明王の小祠